

平成 25 年度 公益財団法人きょうと京北ふるさと公社事業報告書

平成 25 年 7 月 1 日 ～ 平成 26 年 3 月 31 日

(第 1 期)

I 事業総括

平成 25 年度は、新公益法人制度による新法人への移行に伴い、「公益財団法人 きょうと京北ふるさと公社」として、改めて 7 月 1 日より第 1 期目の事業に取り組んでまいりました。

9 ヶ月という期間の中で、旧法人からの事業を継承しながら、毎月事業毎に進捗状況を検証し、公益財団法人として公益的な事業の柱でもある農地利用集積円滑化事業を中心に、ふるさと公社の設立目的(優良農地の保全による美しい農山村の景観の維持、中高齢者を中心とした働く場の提供、地域活性化に向けた都市・農山村の交流活動の推進等)に沿った事業展開と年度計画の達成に向け取り組むとともに、地域の任意団体との関りによる活動にも積極的に取り組みました。

しかしながら、9 月に発生いたしました台風 18 号による地域への被害は、国道 162 号線鳴滝橋の落橋が要因ともいえる「道の駅ウッディー京北」の入館者の減少や、「宇津峡公園」河川敷での土砂やゴミの堆積によるディキャンプ場スペースの減少、また、京北ふるさとバス事業所構内への冠水被害や迂回による運行などを余儀なくされ、事業実績の鈍化と予測外の経費の増加などで、公社事業へも大きく影響を及ぼす事となりました。

そのような状況下ではありましたが、12 月 21 日の鳴滝橋の仮設と併せ、住民の悲願であった「京北トンネル」の開通などにより、遠退いていた京北地域への客足も増加し、「道の駅ウッディー京北」では、緊急雇用対策事業を活用した情報発信による、人を呼び込むための企画にも取り組み、結果として昨年を上回る入館者実績と、売上実績を残す事ができました。

また、「京都市宇津峡公園」についても、災害までの利用が多くあったことから、利用者、収入ともに過去最高の実績を残すことができました。

地域住民の公的交通手段である、ふるさとバスの運行については、年間の事業実績を大きく左右する中学生の通学利用の減少と、人口減少に伴う地域の実態から、乗車人員、運行収入ともに、昨年実績を上回ることができませんでした。

その他、京都市からの委託による、合併記念の森内の施設や管理道路の維持管理に関わる「合併記念の森維持管理事業」や、「総合獣害対策モデル事業」「じっくり楽しむ京北推進事業」といった緊急雇用対策事業としての 2 事業の受入れにより、地域課題となっている獣害対策や、地域活性化の取り組み等、様々な事業に取り組みました。

II 理事会・評議員会の開催

《 理事会 》

第1回理事会 平成25年8月2日(金)

- 1 平成25年度 旧法人事業報告書の承認の件
- 2 平成25年度 旧法人会計決算報告書の承認の件
- 3 平成25年度 新法人事業計画(案)の承認の件
- 4 平成25年度 新法人会計予算(案)の承認の件
- 5 役員等の報酬等に関する規程(案)の承認の件
- 6 常務理事(業務執行理事)の選任の件
- 7 理事及び監事の変更の件
- 8 事務処理規則の改正の件

第2回理事会 平成26年3月11日(火)

- 1 平成26年度 事業計画(案)の承認の件
- 2 平成26年度 会計予算(案)の承認の件

《 評議員会 》

第1回評議員会 平成25年8月12日(月)

- 1 平成25年度 旧法人事業報告書の承認の件
- 2 平成25年度 旧法人会計決算報告書の承認の件
- 3 平成25年度 新法人事業計画(案)の承認の件
- 4 平成25年度 新法人会計予算(案)の承認の件
- 5 役員等の報酬等に関する規程(案)の承認の件
- 6 理事及び監事の解任並びに選任の件

第2回評議員会 平成26年3月19日(水)

- 1 平成26年度 事業計画(案)の承認の件
- 2 平成26年度 会計予算(案)の承認の件

Ⅲ 平成 25 年度 主要事業の概要

(1) 農地利用集積円滑化事業

農地利用集積円滑化団体として、農地の「中間保有・再配分機能」を活かし、農地の借り受け、貸し付け並びに売買等に関わる担い手農家の経営規模拡大や、新規就農者の支援活動に取り組みました。

公社事業の柱として本事業を進めるため、地域への事業PRと幅広い農地情報の収集が必要であり、折り込みチラシを作成し地域への配布もいたしました。

7月以降の結果として、担い手農家の経営規模拡大につながる農地売買に伴う実績を残すことができましたが、利用権設定による農地の貸し借りについては実績を残すことはできませんでした。

[農地利用集積円滑化事業実績] ※ 平成 25 年 7 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日迄

◇ 平成 25 年 7 月 1 日現在の継続物件（一時保有農地）

売渡予定農地件数	1 件
面積	1, 434 m ²
売渡予定金額(対価)	1, 000, 000 円(公社手数料 1.5% 除く)

◇ 買い入れ農地（田）

件数	3 件 (10 筆)
面積	5, 690 m ²
購入金額(対価)	4, 037, 300 円(公社手数料 1.5% 除く)

◇ 売り渡し農地（田）

件数	4 件 (11 筆)
面積	7, 124 m ²
売渡金額(対価)	5, 037, 300 円(公社手数料 1.5% 除く)

◇ 平成 25 年度末ふるさと公社一時保有農地（平成 26 年度への継続物件）

保有農地件数	0 件
面積	0 m ²

◇ 利用権設定

件数	0 件
面積	0 m ²

(2) 田舎の便利屋事業

【地域担い手確保事業】

地域住民の幅広い要望に応えるため、田舎の便利屋事業として多種多様な作業を受託し、人材登録者への作業依頼により取り組みを進めました。

受託可能な作業と人材登録者リストを整理するため、新聞折り込みでのチラシ案内により、地域の方々へ改めて人材登録申請をお願いし、中高齢者を中心とする地域の雇用拡大に努めるとともに、地域への事業 PR も行いました。

7月以降、9ヶ月間の実績としては、草引きや草刈り作業の依頼が多かったこと、また、9月の台風により被害のあった、獣害フェンスの取り除きや施工作業、屋根の葺き替え工事などの大口作業、行政関係での合同庁舎の清掃業務の落札や、河川環境整備に関わる作業料の上積みなどが主な要因となり、収入及び作業依頼件数ともに昨年実績を上回る結果を残すことができました。

- ◇ 登録者数（平成 26 年 3 月 31 日現在）
97 人（60 歳以上 86 人、60 歳未満 9 人、団体等 2 団体）
- ◇ 受託件数（平成 25 年 7 月～平成 26 年 3 月末）
350 件（前年度同期間 311 件）
- ◇ 作業延べ人数（平成 25 年 7 月～平成 26 年 3 月末）
2,019 人（前年度同期間 1,928 人）
- ◇ 受託金額（平成 25 年 7 月～平成 26 年 3 月末）
26,358,159 円（前年度同期間 21,731,687 円）

【農作業受託事業】

農業者(農家)の高齢化に対応するため、農作業受託部会による稲刈り・籾運搬・肥料散布・耕起等の秋の農作業ならびに優良農地を維持するための転作田の管理受託に取り組みました。

[農作業受託実績]

◇ 秋作業（受託件数 85 件）		
隅刈り	12 件	18 枚
刈取り	31 件	611.79 a
籾運搬	18 件	26,796.00 kg（籾乾燥含む）
耕起	14 件	253.47 a（ディスク、ロータリー含む）
その他	10 件	肥料散布他

(3) 地域活性化事業

【地域特産物開発研究事業】

地域特産物として、その開発に力を注いでいるグループの加工食品を、道の駅ウッディー京北において積極的に取り扱いました。

また、「地産地消」と「食育」の取り組みの一環として、京北地域の各小学校や地域の施設へ給食資材として京北産農作物を供給しており、一昨年度からの市内小学校への味噌の供給により全体的な取扱高が増加し、全体として若干下回るものの、ほぼ昨年同等の納入実績を残せています。

他にも、井戸、辻、上弓削にある公社に管理を依頼されている農地において、米やジャガイモ、豆類、大根、白菜などを独自栽培し、例年であれば収穫物は学校給食への提供や、ウッディー京北、イベントでの販売を行っていましたが、9月に発生した18号台風の被害により、米の収量の減収と大根、白菜については壊滅的な状況にみまわれ、残念な結果となりました。

なお、端境期での道の駅ウッディー京北における、京北産野菜の品不足については、委託販売者会の生産者へ、生産拡大に取り組んでいただくよう呼びかけるとともに、対策として野菜不足の間には加工食品生産者に声掛けし、加工食品でカバー出来る販売体制を強めるなど、引き続き取り組んでまいりました。

- ◇ 道の駅ウッディー京北委託販売者会員数（平成26年3月31日現在）
171名
※ 内、生鮮食品販売者 89名 加工食品販売者 44名
- ◇ 道の駅ウッディー京北加工食品販売高(平成25年7月～平成26年3月末)
30,286,530円 (前年度同月末実績 27,940,394円)
- ◇ 道の駅ウッディー京北野菜販売高(平成25年7月～平成26年3月末)
19,880,000円 (前年度同月末実績 20,190,801円)
- ◇ 学校給食地産品取扱高 3,871,168円(平成25年7月～平成26年3月末)
 - 野菜 585,165円 (前年度同期間実績 669,087円)
 - 納品総重量 1,290.2kg (前年度同期間実績 1,572.7kg)
 - 米 46,800円 (前年度同期間実績 46,800円)
 - 納品総重量 120.0kg (前年度同期間実績 120.0kg)
 - 味噌 3,239,203円 (前年度同期間実績 3,594,304円)
 - 納品総重量 5,499.5kg (前年度同期間実績 6,328kg)

【ふるさと振興等調査研究事業】

相談者の京北地域への定住促進を図るため、空き家情報の収集・提供に取り組むとともに、都市住民との交流と地域活性化並びに農地の活用を図るため、7年目となる「市民農園」の運営に取り組みました。

① 空き家情報の斡旋の取り組み

既存の空き家データ及び情報収集による新規の受付により、定住相談による空き家の斡旋に取り組んでまいりました。

しかし、相談は頻繁に受けるものの紹介出来る空き家の絶対数のごく僅かであることや、家庭菜園的な畑を併せた相談等を受けることも多く、相談者の要望を満たし、成約による定住促進の実績を積み上げるには、困難な事業展開となっています。

空き家斡旋による定住促進は、貸家の登録を増やすため、盆や正月あるいは彼岸などの帰省の問題や、畑等の要望にどう対応するのか、などの課題対策も併せて取り組まなければ、存続が難しい事業であるといえます。

◇ 平成 25 年度取り組み実績（平成 25 年 7 月～平成 26 年 3 月末）

新規空き家登録件数	2 件（空き家登録合計 14 件）
定住者件数	2 件
相談受付件数	39 件

② 市民農園「京北ふるさと農園さんりょう」の利用者拡大と運営

開園 7 年目となる市民農園では、平成 25 年度も農園を通じて都市住民との交流と地域活性化を図るため、土・日、祝祭日を中心に利用者の方々に京北地域へ来ていただけるよう取り組みを進めました。

しかしながら、農園の利用状況については、高齢化等により従来からの利用者の継続利用が減少していること、また、複数区画を借りられる利用者も少なかったことから、昨年を上回る利用実績を残すことができませんでした。

新規の応募が開園当初に比べると少なくなってきたことから、ホームページやウッディー京北での PR など、利用者拡大のための新たな検討や取り組みが必要な時期となっています。

恒例となっている秋の収穫祭では、農作物の品評会を行い、昼食時には農園利用者、地元寺山地域の住民の方々、公社関係者、合わせて約 50 名が、猪なべや炊き込みご飯で昼食をとりながら、交流を深めることができました。

なお、平成 25 年度も農園の一角に公社が栽培した「さつまいも」については、昨年同様ウッディー京北やイベントでの販売、学校給食の食材として提供することができました。

◇ 平成 25 年度「市民農園」利用実績

募集区画数 …… 57 区画

利用区画数及び利用者数 …… 35 区画、19 名

※ 6 月末 34 区画、18 名

※ 平成 24 年度 40 区画、24 名

年間利用料 …… 一区画(約 40 m²)当たり 15,000 円

◇ 市民農園でのイベント

収穫祭 …… 実施日：11 月 23 日

参加者：52 名(農園利用者、地域住民、関係者(京都市、JA、公社))

【都市と農山村交流事業】

都市住民との交流により地域活性化を図るため、年間計画として市民農園や道の駅ウッディー京北等でのイベントを開催し、都市住民を京北地域に呼び込むとともに、他地域でのイベントにも積極的に参加し京北地域の P R 活動に努めました。

[平成 25 年 7 月～平成 26 年 3 月末 主催イベント]

◇ 市民農園 (1 回)

- ・ 11 月 23 日 市民農園収穫祭
内容：品評会、昼食を囲んでの交流、ポン菓子

◇ 道の駅ウッディー京北 (4 回)

- ・ 7 月 20 日 道の駅ウッディー京北 夏まつり
～28 日 内容：委託販売者による日替わり店頭販売、メダカすくい、アユの塩焼き、手作り工房展
クーポン付散策マップの配布 他
- ・ 10 月 10 日 周山城址を巡るツアー(1 回目) 参加者 6 名
内容：城山登山、羽田酒造酒蔵見学等
(じっくり楽しむ京北推進事業による企画)
- ・ 11 月 7 日 周山城址を巡るツアー(2 回目) 参加者 12 名

- ・ 11月28日 周山城址を巡るツアー(3回目) 参加者10名

◇ 宇津峡公園 (1回)

- ・ 8月3日 入園15万人達成記念イベント
内容：セレモニー実施、15万人目の入園者へ記念品贈呈

[平成25年7月～平成26年3月末 参加イベント]

◇ 京北地域内 (3回)

- ・ 8月16日 京北夏まつり
内容：コロッケ販売
- ・ 11月3日 京北ふるさと祭り
内容：小豆、さつま芋、鹿肉カレー販売
- ・ 12月21日 京北トンネル開通祝賀イベント
内容：ウッディー京北のPR及び誘客

◇ 京北地域外 (2回)

- ・ 10月26日 右京区民ふれあいフェスティバル (太秦安井公園)
内容：野菜・米・かぼちゃスープ販売、事業紹介
- ・ 11月9日 京の農林秋まつり (上賀茂神社)
内容：野菜・米・玉子かけごはん・かぼちゃスープ販売

(4) 地域交通事業

【京北ふるさとバス】

平成28年3月31日までの3年間、引き続き道路運送法に基づく過疎地有償運送事業者としての期間更新を受け、地域唯一の公的生活交通手段として、京都市との連携のもと地域住民の安全・安心な“足”となるべく、ふるさとバス運行に取り組んでまいりました。

年間を通じて無事故で安全なバス運行を行い、地域からより信頼されるバス運行が出来るよう体制を整えるとともに、休日の地域バス案内所に於ける、京北地域の交通案内や観光に関する問い合わせ対応をはじめ、定期券の発券、共通回数券の販売など、利用者の利便性を図りながら乗車人員の減少を防ぐための取り組みも継続して行ってまいりました。

しかしながら、人口減少化における地域の状況や、ふるさとバスの運行において鍵となっている、中学生の動向により結果が左右されるという実態が好転

しているわけではなく、乗車人数、運行収入はともに平成 24 年度実績を上回ることができませんでした。

また、平成 25 年度は台風 18 号による京北地域への被害により、冠水による車両の修理や迂回による行路変更を余儀なくされるなど、予想外の経費負担を強いられる中での事業運営となりました。

乗車人数が年間を通じて 7 万人を大幅に割る実績となるなか、運行収入については周山中学校の前期 6 ヶ月定期代金の 7 月から 9 月分を 6 月実績としたため、平成 25 年 7 月から平成 26 年 3 月末までの実績に反映されておらず、昨年同期間の実績と比較すると大幅な実績の減少となっています。

このような状況の下、今後、地域の重要な生活交通手段としてふるさとバスの運行を存続していくためには、京都市と京北地域が一丸となってバス運行事業について考え、地域における効率的で効果的な運行について喫緊の課題として検討し、取り組んでいく必要があります。

◇ 平成 25 年度運行実績（平成 25 年 7 月～平成 26 年 3 月末）

乗車人員 50,309 人（前年度同期間末実績 56,615 人）

運行収入 9,722,814 円（前年度同期間末実績 19,315,430 円）

※ 平成 25 年度運行収入実績には、周山中学校の前期 6 ヶ月定期代金の 7～9 月分が反映されていません。（4～9 月分を 6 月実績としたため）
ただし、会計決算上は月割り計算で反映されています。

【スクールバス】

京北地域の児童生徒の通学及び教育活動のため、京都市教育委員会から全面委託を受け、7 月以降の委託料を 1,391 万 9,000 円として予算化し、スクールバス運行を行ってまいりました。

学校や京都市教育委員会との連携を密に取りながら、ふるさとバス同様安全運行を第一の目標に掲げ取り組み、7 月以降一件の小さな事故を起こすことなく運行することができました。

(5) 公共施設管理事業

【地域特産物需要拡大センター「道の駅ウッディー京北」管理運営事業】

平成 23 年度より 4 年間の、京都市指定管理者制度に基づく指定管理者として、施設の管理運営事業に取り組み 3 年目を迎える事となり、緊急雇用対策事業である「じっくり楽しむ京北推進事業」を活用する中、地域の情報発信や地域産業の紹介拠点として、地域内外に向けた取り組みを展開してまいりました。

「道の駅」として開駅されて以来、入館者と売上高は飛躍的に増加し、「道の駅」としての三つの機能(休憩機能・情報発信機能・地域の連携機能)を果しながら、京北地域の中心に属する地域の拠点施設としての役割も定着してきています。

平成 25 年度の 7 月から 3 月末の 9 ヶ月の実績としては、入館者及び売上高ともに 9 月の 18 号台風以降鈍化の動きを見せていましたが、12 月 21 日の鳴滝橋の仮設と併せ、「京北トンネル」の開通などにより、遠退いていた京北地域への客足も増加し、結果的には昨年度を上回る実績を残すことができました。特に、総売上げは過去最高の 1 億 3,800 万円余りの実績となりました。

しかしながら、経費削減や費用対効果を追及した運営のあり方が課題となっており、健全な運営が行えるよう、職員配置を含めた組織体制の見直しも行う中で進めていく必要があるといえます。

なお、施設改善としてトイレの改修(狭い、数が少ない等)については、平成 25 年度より京都市のほうで具体的な動きをいただいております、平成 26 年度中に改修される運びとなっております。

- ◇ 道の駅ウッディー京北入館者数 (平成 25 年 7 月～平成 26 年 3 月末)
271,746 人 (前年度同期間末実績 269,417 人)
- ◇ 道の駅ウッディー京北売上高 (平成 25 年 7 月～平成 26 年 3 月末)
99,731,632 円 (前年度同期間末実績 92,708,264 円)

【宇津峡公園管理運営事業】

平成 23 年度から 4 年間の、京都市指定管理者制度に基づく指定管理者としての 3 年目を迎え、都市住民との交流拡大施設としてまた大型アウトドア施設としてコテージ、キャンプ場等の管理運営事業に取り組み、天候に恵まれたとはいうものの、京阪神地域からの家族、各種団体、学校関係者を中心とする多くの利用者と、リピーターによる固定的な利用者により、平成 25 年度の 7 月から 3 月末の 9 ヶ月の実績は、前年度を上回り過去最高の入園者数と、収入実績を残すことができました。

9 月には、台風 18 号に見舞われ宇津峡公園へのアクセス道路が一時不通となったことや、ディキャンプ場が一部使用不可となるなどの被害を受けましたが、施設利用のピーク時期を過ぎていたこともあり、9 月の実績こそ昨年を下回ったものの、その後の復旧により年間の利用に影響が出ることはありませんでした。

宇津峡公園の管理運営は安定した収益が見込める事業となっており、公社の行う公益事業を保管する意味合いに於いても、今後も重要な位置付けの事業で

あるといえます。

- ◇ 宇津峡公園入園者数（平成 25 年 7 月～平成 26 年 3 月末）
9,606 人 （前年度同期間末実績 8,635 人）

- ◇ 宇津峡公園収入金額（平成 25 年 7 月～平成 26 年 3 月末）
16,503,968 円 （前年度同期間末実績 15,144,664 円）

（6）葬祭関連事業

収益事業として公益的な事業を補完し、ふるさと公社の安定経営に向けた財務基盤を確立するため、貸館事業として取り組んでまいりました。

地域の高齢化が進み、家屋様式や住民意識も変化する中で、葬儀形態も告別式当日の初七日法要が恒例となるなど、会場利用も大きく移り変わるなか、利便性を考えたマイクロバスによる火葬場への送迎や、地域の中で簡素な葬儀を執り行う事が出来るなど、住民の皆様からは大変喜ばれている事業でもあります。

年間の利用は、年度によってバラつきはありますが、平均 38 件前後の利用をいただいております、平成 25 年度の利用実績は平均を上回るものとなっています。

課題としては、利用者から要望のある施設の老朽化に伴う設備改善があげられ、気持ちよくご利用いただくための対策が必要となっています。

- ◇ 会場利用実績
平成 25 年 7 月～平成 26 年 3 月末までの利用件数 32 件
オープン(平成 16 年)以降の累計 376 件

（7）農産物処理加工施設整備事業（大豆の里京北「第 6 次産業」化拠点施設整備事業）

平成 24 年度に、京都市の「過疎地域自立促進計画」に掲げられ、施設も完成し、施設名称を『山国「水・土・里の館」』として、平成 25 年度より京北まごころみその生産を中心に、農作物の処理加工に取り組んでいますが、実質の管理・運営は山国さきがけセンターが行っており、公社としては事業主体として、施設に関連する減価償却などの事務処理関係についての役割を担っています。

《参考》 平成 25 年 7 月～平成 26 年 3 月末までの京北まごころ味噌加工実績

生産実績 16,320 kg

売上実績 7,430,793 円

(8) 合併記念の森維持管理事業

昨年度に引き続き京都市からの委託事業として、臨時職員 1 名を週 2～3 日間勤務で雇用し、7 月以降の事業費として委託料 261 万 1,350 円を予算化し事業に取り組みました。

合併記念の森内の管理道路、歩道、建物管理等通常の維持管理や、倒木処理、崩土除去等の土木工事等に取り組むとともに、平成 25 年度第 2 回目の森作りイベントに対し積極的な協力を行いました。

(9) 緊急雇用対策事業

【「じっくり楽しむ京北」推進事業】

平成 24 年度からの継続事業である緊急雇用対策事業として、臨時職員 4 名を雇用し 7 月以降の事業費として委託料 654 万 4,400 円を予算化し、取り組みました。

1 名をウッディー京北に配属し、京北を訪れる多くの方へ京北地域の魅力や情報の発信を行うとともに、昨年度から開始いたしました自転車の貸し出し(レンタサイクル)によるエコツーリズムの推進も、定着に向け取り組みました。

秋の特別イベントとして、取り組んだ「周山城址を巡るツアー」では、3 回の実施で合計 28 名の参加者があり、城山登山や羽田酒造酒蔵見学等の企画で楽しんでいただきました。

また、3 名は公社に配属し、2 名を合併記念の森に於ける森づくり体験のための環境整備、1 名は農作物の収穫体験のための畑づくりや農作物生産準備等に携わって参りましたが、農作物生産については台風 18 号により壊滅状態となり、事業に活かせることはできず残念な結果となりました。

◇ 7 から 3 月末レンタサイクル貸し出し実績 2 4 台

【総合獣害対策モデル事業】

前年度に引き続き 4 月から 3 名を雇用し、7 月以降の事業費として委託料 384

万 5,540 円を予算化し事業に取り組んでまいりました。

京北地域でのイノシシ、シカ等の野生動物による農作物や森林、住民生活への被害は深刻であり、事業や罾・檻の設置場所等について、地域に対するお知らせについては課題は残したものの、山間部や山際周辺において、獣害防止のためのフェンスの設置等、地元猟友会とも連携し捕獲・追い払い作業を行いました。

◇ 7月1日から11月14日(猟期)までの事業実績

罾設置	1箇所
檻設置箇所	延べ9箇所
有害鳥獣(猪・鹿)合計捕獲数	45頭